

日仏政治学会共催 ピエール・ビルンボーム教授講演会のお知らせ

このたび、パリ第一大学名誉教授のピエール・ビルンボーム氏が来日されることとなり、これを期に、日仏政治学会共催の講演会を開催することとなりました。またこの来日において、日仏会館および関西方面において、別に研究会・講演会も開催されます。会員の皆様におかれましては、是非この機会にビルンボーム教授の講演会に足をお運びください。

日時：2017年5月20日(土) 17:30～19:30

場所：明治大学駿河台キャンパス リバティータワー 1083 教室(8階)

講演タイトル：「国家とシティズンシップ ——フランス政治学に固有なパースペクティブはあるのだろうか？」

ディスカッサント：中野裕二(駒澤大学法学部教授)

フランス語、逐次通訳

講演要旨：

フランスは国民国家を発明した。それは、国家によるネイションの構築という前代未聞の歴史的なプロセスであった。絶対君主政からフランス革命、そして共和国の制度化にいたるまで、自身のネイションを作り出あげ、国家的空間とうまく区別できない公共空間で積極的に行動するシティズンシップを押しつけるのが強い国家である。そうである以上、アレクシ・ド・トクヴィルのパースペクティブに見られるように、フランス政治学は、高級官僚からの国家エリートの採用や介入主義的な経済政策、そして市民が自らの固有な帰属から切り離され、国家と密接に結びつけられるその紐帯に国家の特性を見いだした。しかしながら、この強い国家と行動的なシティズンシップのモデルは、脅威をまねくおそれのあるポピュリズムのあらゆる形態を許容することで、形骸化していることには変わりがない。

日仏政治学会・科研費基盤 (C) 「18・19 世紀における「習俗」の概念と公共空間の変容：劇場・都市・共和国」15K03814 共催

*本講演会は、明治大学大学院政治経済研究科特別講義を兼ねる予定です。

本講演会に関する問い合わせは、日仏政治学会事務局 (societe.fr.jp.sciencespo@gmail.co) へ、それ以外のピエール・ビルンボーム教授の来日中の講演に関しましては稲永祐介会員 ([yuinenaga@gmail.com](mailto:yuinena@gmail.com)) にお願ひします。

参考：

ピエール・ビルンボーム教授の来日中の講演等予定(時間、参加者は変更の可能性あります)

1) 講演「フランス的な解放と啓蒙 ——1789年からのユダヤ人を事例にして」

会場：日仏会館

日時：5月19日(金)18:30-20:30

司会：富永茂樹(京都大学名誉教授)

討論者：三浦信孝(中央大学名誉教授)

フランス語、逐次通訳

2) 講演「フランス革命からドレフェス事件まで ——普遍主義と文化的多元主義の間」

会場：京都大学(楽友会館)

日時：5月27日(土)16:00-18:00

司会：富永茂樹(京都大学名誉教授)

フランス語、逐次通訳